

TPP11協定の署名について

内閣官房TPP等政府対策本部

- 3月8日午後3時（現地時間）、チリ・サンティアゴにおいて、TPP11協定（環太平洋パートナーシップに関する包括的及び先進的な協定）の署名式が開催された。（バチェレ・チリ大統領も臨席）
- 我が国政府代表として、茂木経済再生担当大臣が出席、他の閣僚等とともに署名を行った。
- 署名式に先立ち開催されたTPP閣僚会合において、閣僚声明が採択され、署名式において11か国を代表して茂木大臣が発表した。

閣僚声明においては、今後各国において「本協定を迅速に発効させるために国内手続きを完了する」こと、また「本協定に加入することを希望する他の多くのエコノミーによって示された関心を歓迎する」旨が盛り込まれた。

- 閣僚会合においては、TPP11交渉において我が国が果たした主導的役割に対し各国から謝意が表明されるとともに、協定の早期発効・円滑な実施に向け、我が国が引き続き各国との連絡調整など、必要な事務局的功能を果たしていくことについて、参加国からの賛同が得られた。
- 併せて、協定とは別に、交渉参加国との間で作成する文書（いわゆるサイドレター）についても署名がなされた。

<署名式における茂木大臣発言>

バチェレ大統領、ムニョス外務大臣をはじめとしたチリの関係者の皆様に対して今回の署名式の開催につき改めて感謝を申し上げたい。また、寄託国としての役割を果たしてくれているパーカー外務大臣率いるNZにも感謝したい。そして、本日ここにいるすべての参加国に対して、多くの困難な課題があったが、それを克服し非常に速いスピードで今回の協定署名に至れたことを祝福したい。

TPP11は、アジア・太平洋に自由で公正な21世紀型の経済連携ルールを構築する歴史的な成果である。本日、すべての閣僚が、本協定の迅速な発効と円滑な実施に向けた最大限の努力をすることに合意した。日本としても、引き続き、11か国の連絡調整などの必要な機能を担っていきたい。

我々すべての努力により、この先、ハイスタンダードで、よくバランスの取れたこの協定に、多くの国や地域の参加を促すことができる。皆さんと一緒に努力し、それを実現したい。